

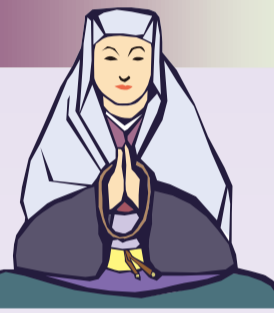
# 大原の里



京都郊外の大原の里は、山々に囲まれた美しい山里です。国道367号線(大原街道)の東には呂川と律川が流れ、三千院と周辺に勝林院、来迎院ほか天台声明の寺院があります。また、西には『平家物語』で知られる建礼門院が隠棲した寂光院とゆかりの地もあります。さらに北や南にも阿弥陀寺、惟喬親王墓、江文神社ほか、大原の歴史を伝える寺社等も残り見所に事欠きません。少し足を伸ばして歴史を散策するコースを楽しんでみてください。

## 建礼門院ゆかりの地(西コース)

建礼門院徳子は平清盛の娘で高倉天皇の中宮です。1185年、壇ノ浦の合戦で入水し、子の安徳天皇と母を失いましたが、建礼門院は命をとりとめ、京都東山の長楽寺で29歳で出家しました。同年に寂光院に隠棲し、安徳天皇と平家の菩提を弔う日々を送りました



## 大原御幸

1186年、後白河法皇は京都から江文峠を越え、息子の高倉天皇の妻であった建礼門院を寂光院へ訪ねました。建礼門院はそれまでの人生を「六道」になぞらえて後白河法皇に語ったことが「濯頂の巻」『平家物語』に記されています。

### 1 臈の清水

建礼門院が京都から寂光院へ向かう途中で日が暮れ、清水の水面に月光で姿が臈に映ったといわれています。



### 2 落合の滝

建礼門院が詠んだ歌「ころころと小石流るる谷川の河鹿鳴くなる 落合の滝」で知られています。



### 3 高倉天皇中宮徳子(建礼門院)墓

建礼門院は『平家物語』では1191年に亡くなったと書かれていますが、古文書では1213年に亡くなったともいわれています。



### 4 寂光院

天台宗の尼寺です。飛鳥時代、聖徳太子が建立したと伝えられています。本堂と本尊の地藏菩薩立像は2000年に焼損しました。本堂は全焼後再建され、収蔵庫に保存されている旧本尊は重要文化財です。また、建礼門院と阿波内侍像が堂内にあります。



### 5 阿波内侍の墓

建礼門院に仕えた藤原信西(しんぜい)の娘・阿波内侍と従者三名のものと思われる墓が、寂光院近くの木立の中にあります。



## 阿弥陀寺

1609年、木喰上人弾誓(だんじょう)が創建。山中を上る参道には三百本近くのカエデと樹齢約800年といわれる古知谷のカエデ(市指定天然記念物)があり、江戸時代より紅葉の名所として知られています。



山門 古知谷のカエデ

## 大原女

京の街へ、薪や柴などを売り歩く大原女は阿波内侍が山に花摘みや柴刈りにいく姿を模したといわれます。



京都バス19系統「大原バスターミナル〜古知谷」は自由乗降区間です。

## 飯導寺神社

農耕神の飯導大権現を祀っています。かつて行われた、奉納相撲の土俵が残っています。もとは、比叡山の僧が参籠する寺であったといわれています。



## 紫葉漬

里人が、紫蘇と漬けた夏野菜を建礼門院に差入れたところ「紫葉漬(むらさきはづけ)」と名づけたことが紫葉漬の由来ともいわれています。



## 江文神社

大原ハケ町の氏神です。毎年9月1日に「大原八朔(はっさく)踊り」(市登録無形民俗文化財)が行われています。



花尻の森(江文神社御旅所)

## 声明発祥・修行の地(東コース)

平安時代初期、慈覚大師・円仁は唐に渡り五台山で声明を学びました。847年に帰国し、五台山の大原(タイクワン)に似た大原に、天台声明の道場を開山しました。平安時代末期には、上院の来迎院と下院の勝林院を中心に49もの坊ができ、声明を修行する僧や貴族が集まりました。中国声明の聖地・魚山に因み、「魚山大原寺(ぎょざんだいげんじ)」と総称するようになりました。

### 1 三千院門跡

最澄の開いた一院を起源とする、天台宗三門跡寺院の最古の寺です。1156年には、魚山大原寺を統括する梶井政所が置かれました。モミジと苔の美しい「聚碧園(しゅうへきえん)」、「有清園(ゆうせいえん)」は市指定名勝庭園です。寺内にある往生極楽院(重要文化財)には、「大和坐り」で有名な、阿弥陀三尊像(国宝)が安置されています。



### 2 実光院

勝林院の子院である理覚院と普賢院が統合された寺院です。初秋から迎春まで咲く不断桜が契心園(けいしんえん)にあり、庭の北には茶室理覚庵があります。



### 4 宝泉院

勝林院の子院。樹齢約700年といわれるゴヨウノマツ(市登録天然記念物)と「額縁庭園」が有名です。落城した伏見城の遺構が血天井として供養されています。



### 3 勝林院

1013年、円仁の弟子・寂源が天台声明の根本道場として建立しました。本堂(市指定文化財)は後醍醐天皇の御常御所を移築したものです。「大原問答」の舞台となりました。



### 5 来迎院

1109年、融通念仏(ゆうつうねんぶつ)の開祖・良忍は来迎院を建立し、魚山声明を集大成しました。境内には聖応大師良忍御廟の三重石塔(重要文化財)があります。



## 大原問答

1186年秋、浄土宗の開祖・法然が勝林院の願真に招かれ、比叡山の学僧達を一人て論破した大法論を「大原問答(大原談義)」といいます。本尊の阿弥陀如来は、法然が正しいことを示し光明を放ったといわれ、「証拠阿弥陀如来」として今に伝わっています。勝林院は「問答寺」とも呼ばれるようになりました。



法然懸掛石(勝林院前)

### 6 音無の滝

良忍が声明を唱えていると、声明と滝の音が調和して滝の音が聞こえなくなったという故事から「音無の滝」といわれています。この滝は律川の上流の山中にあります。



音無の滝

## 呂川・律川

声明の発祥地を流れる「呂川」と「律川」があり、この名は呂旋法と律旋法が由来です。



## おつう伝説

昔、大原に「おつう」という娘がいました。ある日、若狭の殿様の目にとまり、国に召されて幸せに過ごしていましたが、病にかかると殿様は心変わりしてしまいました。おつうは悲しみのあまり大原川の女郎洲に身を投げると、大蛇に変身してしまいました。ある日、花尻橋を殿様の行列が通ると、おつうの大蛇が襲いました。大蛇は家来に斬り捨てられましたが、その夜から雷鳴と風雨が里を襲い、恐れた里人は大蛇の頭を乙が森に、尻尾を花尻の森に埋めて霊を鎮めたということです。今も「おつう」の法要行事が行われています。



乙が森(おつがもり)

花尻の森(はなじりのもり)

### 7 出世稲荷神社

1587年、豊臣秀吉が聚楽第に建立。後陽成天皇が「出世稲荷」の名を授けたと伝わっています。堂本印象筆の「雲龍絵図」の天井画があります。2012年に大原に移転しました



### 9 浄楽堂

木造十一面観音立像(市指定文化財)が安置されています。成人の日に修正会(しゆしょうえ)のなごりと考えられる「大原上野町おこない・おろ」(市登録無形民俗文化財)が行われています。

### 8 大原御香水

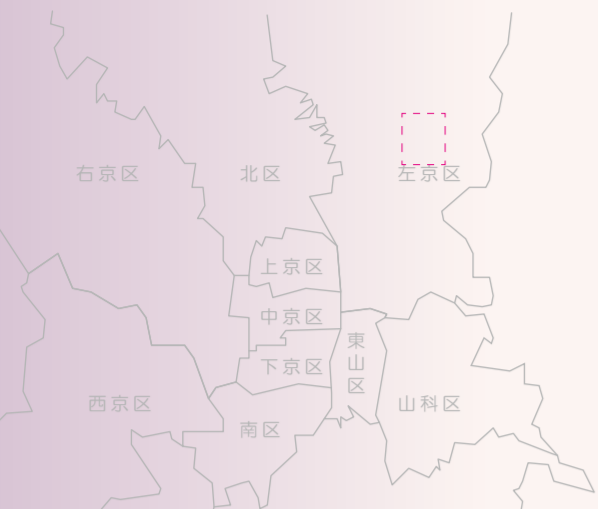
空海の高弟・真濟(しんぜい)による霊水「仙気の水」が年に一度湧くと伝わっています。霊水ゆかりの薬師如来立像と惟喬親王(これたかしんのう)尊像が安置されています。



### 10 惟喬親王墓

文徳天皇の第一皇子であった惟喬親王が872年に出家し、その後、小野の里(大原)に隠棲したことから、小野宮とも呼ばれました。隣には小野御霊神社が祀られています。

# 大原の里



## ～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 大原の里周辺の発掘調査

大原の里は京都盆地北東の左京区大原に位置しています。北側と西側を北山山系の山々、東側を比叡山と比良山系の山々に挟まれ、北から南流する高野川沿いに開けた南北に細長い山間盆地です。比叡山には、最澄によって建立された天台宗延暦寺があり、その影響下、高野川左岸には三千院として知られる円融院の他、勝林院、来迎院などの延暦寺別院が建立されています。若狭から京へ物資を運ぶ高野川左岸沿いの街道は、古くから大原路と呼ばれていました。右岸の高野川支流の草生(くさお)川上流には、建礼門院徳子の隠遁地として知られる寂光院があります。寂光院の南西には金比羅山があり古くは江文(えぶみ)山と呼ばれ、平安時代には山の中腹に江文寺があったとされ、今も礎石や石垣が残っています。また、静市静原地区の山中には、近年発見された平安時代中期の山岳寺院である補陀落寺(ふだらくじ)跡が知られ、戦国時代の静原城跡も、その痕跡を残しています。発掘調査は寂光院境内の本堂跡でおこなわれています。また大原草生・野村地区では分布・確認調査がおこなわれています。

#### ① 寂光院境内

寺伝によれば、推古二年(593)聖徳太子の創建といわれています。文治元年(1185)に建礼門院徳子が入寺、平家一門の菩提を弔ったとされます。その後、寺は荒廃し、慶長八年(1603)に、豊臣秀頼の母・淀君により再興されます。本堂は平成十二年(2000)5月に焼失しました。同年12月から本堂再建に伴う発掘調査が行われ、平安時代末期以前の建物跡の礎石列が見つかりました。次いで建礼門院徳子が大原入山の時期にあたる平安時代末期から鎌倉時代の建物の整地、そして淀君による再興の時期にあたる桃山時代末期から江戸時代初期の土器を埋納した穴、溝跡などを発見しました。本堂は二度建て替えが行われたことが明らかになりました。



上空から見た寂光院とその周辺(写真上が北)



発掘調査の様子



建物跡の新旧の礎石列



白磁片を蓋にして壺を埋納した穴



再建された現在の本堂

#### ②③ 大原草生・野村地区の調査

遺跡調査の方法には発掘調査以外に耕作地や山地などで表面の地形観察や土器、瓦などの遺物を採取して、地下の遺跡の有無や範囲を推定する分布調査と、部分的に発掘し遺跡を確認する試掘調査があります。はじめに分布調査を行い、次に試掘調査で遺跡の範囲を確認し、発掘調査で遺跡の性格や時代などを明らかにします。2005年、寂光院から南東約700mにあたる大原草生・野村地区の農地で圃場(ほじょう)整備事業が計画され、寂光院にかかわる遺跡の存在が予想されたことから、事前に分布調査が行われ、耕作地で平安時代から江戸時代の土器が採取され、遺跡の存在が推定されました。さらに詳しく地下の状況を知るため試掘調査が行われ、耕作に伴う旧畦、溝などが見つかり、平安時代後期から鎌倉時代の遺物も見つかりました。また平安時代から中世の頃に洪水跡や石列も見つかりましたが、寺院跡や住居にかかわる建物などは発見されず、本格的な遺跡の発掘調査には至りませんでした。



大原草生 野村地区の遠景

#### ② 大原草生町地区



確認調査の様子

#### ③ 大原野村町地区



平安時代から中世の洪水跡



中世の石列跡



中世の石列跡の断面

#### ④ 補陀落寺跡

静市静原地区の通称「クダラコージ山」の山中で、1988年に発見された山林寺院跡です。文献からは平安時代中期の天慶八年(945)に、僧延昌の創建とされています。静原の集落東方を流れる東俣川と西俣川の合流地の西北にあたり、斜面を造成した平坦面が数カ所残っています。頂上近くには自然岩の巨石がみられ、平坦地から平安時代中期の土器や瓦が採集されています。



平坦地に散在する石材



平坦地の礎石跡



頂上の巨石からみた「クダラコージ谷」

#### ⑤ 江文寺跡

大原野村地区の金比羅山の中腹で発見された山寺跡です。平安時代後期に創建されたといわれています。琴平宮社の境内地になっており、参道を北上した中腹の平坦地には石列や礎石がみられ、石材も散在し、平安時代の土器も採集されています。



平坦地の礎石跡と「江文寺跡」とかかれた石碑(右写真)



中腹の平坦地に散在する石材



平坦地に残存する石列

#### ⑥ 静原城跡

静市静原地区に残る山城跡です。左京区岩倉にあった小倉山城主山本氏の別城といわれています。天正元年(1573)織田信長の命により明智光秀に攻撃され落城しました。通称「シロヤマ」といわれる城谷山頂(標高478m)の平坦地には、部分的に石垣跡や石段跡がみられ、曲輪や土塁も残り、東尾根にも城跡が広がっています。



静原城跡の遠景



城谷山山頂の本丸跡とみられる平坦地



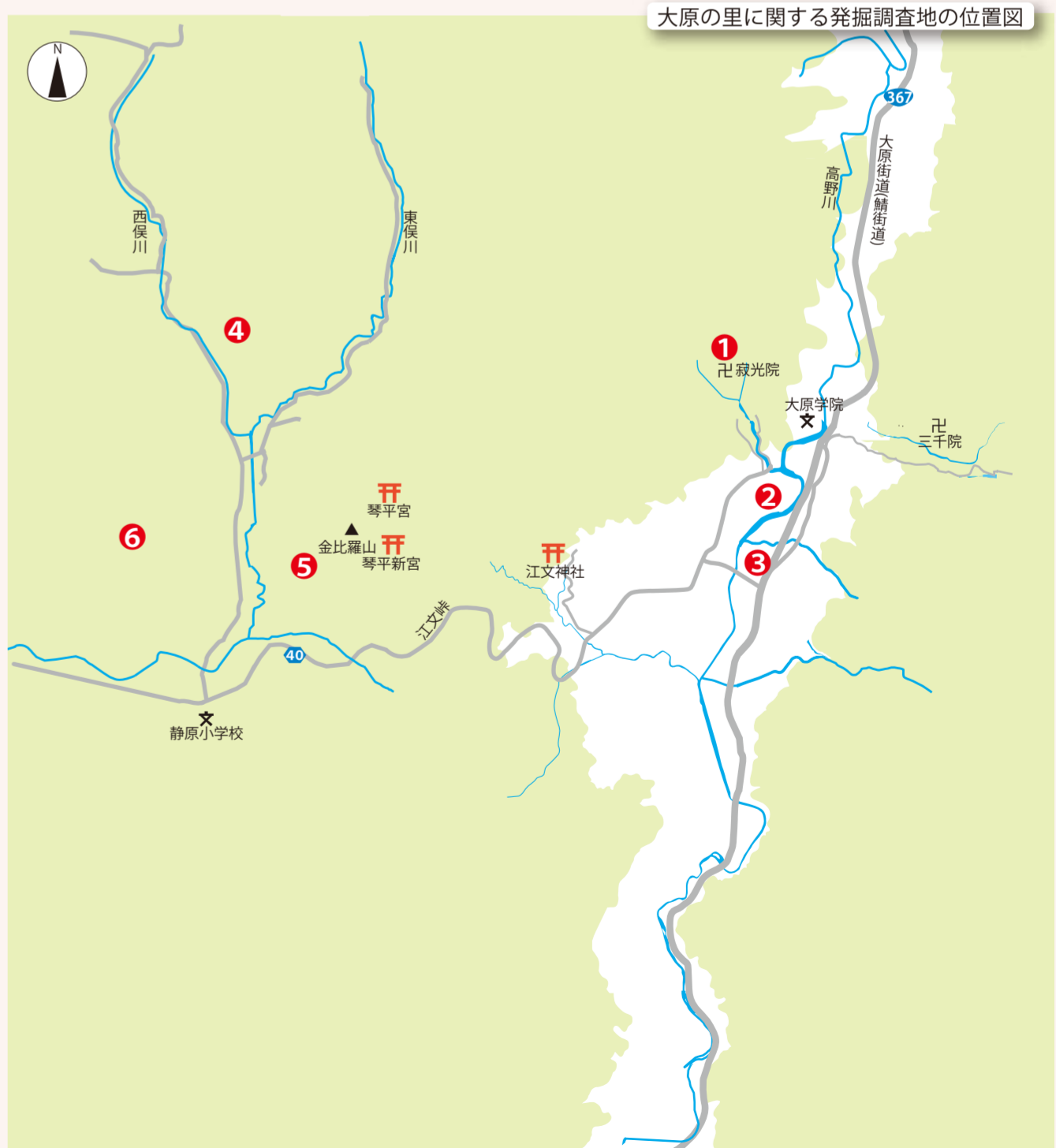
尾根筋に残存する土塁跡



### 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435  
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1  
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307  
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/  
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)  
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分  
バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所